

視察研修 所感

山中 佳子

1. 慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) 視察

この度、「自分の学び方は自分で決める」という他にはないユニークなカリキュラムを採用している、慶応義塾大学環境情報学部准教授長谷部葉子先生の研究室を訪ね、研修してきました。

長谷部先生と美祢市とのご縁は、昨年より研究室に所属する学生が秋芳町内の民家にホームステイアルバイトをしながら美祢市の生活を体験、また公設塾 mineto にも携わりながら地域と大学の連携を図るという活動を通じて深まってきました。

少子高齢化、過疎の進む美祢市において、若い斬新な考えを持つ若者と接することは小中高生にとってこんな世界もあるのだという広い視野を得、将来の希望の一助になる可能性は大なるものがあると感じています。

さて、今回は「農とともにある暮らし」を实践され、住宅街の古民家を借り受け共同生活をされている長谷部先生と学生のお宅を訪問しました。家のリフォームも自分たちで手がけ、畑を作り、周辺地域との関わり方を模索しているとのこと。

この活動を地方にも広げ、日本全国に長谷部研究室の学生が休学して、地域との関わり方を研究・研修されており、良いところがまだまだたくさんある美祢市内にもその拠点を考えているとのことと頼もしく感じました。

長谷部先生を始め学生の皆さんはとにかく一生懸命私たちの話を聴き、キャンパスの中でどのように生かしていけるか、これからの世界はどうするべきか、その先にあるまだ見えない目標に向かって模索し続ける若者たちでした。

今回研修に参加した議員団は私を含め、青春まっただ中の学生たちに圧倒されながらも、外から見た美祢市の魅力を再認識し、彼らの力を借りながらまちづくりに取り組む必要性を痛感しました。

2. 神奈川県立境川遊水地公園視察

今回視察した遊水地は複数の自治体にまたがり、住宅地の中に位置する想像を超えた膨大な敷地面積を有していました。

県立でもあり、用地買収から建設費用も破格であり、政令指定都市3市を抱える神奈川県だからこそできる事業であろうと感じました。

しかし規模の大小はあれ、美祢市でも遊水池は数年に一度ではありますが、水害に備える施設としては必要であり、今回6月末からの豪雨災害もこのような治水対策がされていれば防げた可能性は大いにあったと思われます。

私は9月議会において河川に流れ込む水を調整するための「田んぼダム」を提案しましたが、大規模な治水工事がすぐに望めない状態であれば、休耕田等を利用したこのような対策も有効なのではないかと再考しました。